

学校情報

①学校の概要、目標及び計画

学校名	設置年月日	校長名	所在地・連絡先
名古屋医療秘書福祉 &IT専門学校	昭和62年3月24日	小林 邦弘	〒451-0045 愛知県名古屋市西区名駅2丁目27番28号 (電話) 052-561-1148
設置者名	設置年月日	代表者名	所在地・連絡先
学校法人 三幸学園	昭和60年3月8日	鳥居 敏	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151
学校の教育・人材養成の目的			
本校は、教育基本法に則り、学校教育法に基づき医療事務・IT情報デザインまたは介護福祉士に必要な知識・技能を教授し、医療機関・社会福祉施設・一般企業などで活躍できる人材の養成を目的とする。			
沿革	http://www.sanko.ac.jp/about/history/		

②各学科等の教育

学科	修業年限	入学定員	収容定員
歯科アシスタント科	1年	40人	40人
医療事務科	1年	60人	60人
医療秘書科	2年	240人	480人
診療情報管理士科	3年	40人	120人
くすりアドバイザー科	2年	40人	80人
WEBデザイン・IT科	2年	40人	80人
医療保育科	3年	40人	120人
介護福祉科	2年	30人	60人

<客観的な指標の算出方法>

客観的な指標の算出方法
全履修科目の評定（5点法で示されたもの）の和を科目数で除したものを「評定平均」とし、年に2回（期末ごとに）一覧管理を行うことで、成績の分布状況を把握する。

<卒業要件について>

卒業要件	
本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。所定の単位は、卒業要件として以下のとおりとする。 (1) 卒業要件単位数は、31単位に当該学科の修業年限相当数を乗じた単位数以上とする。 (2) 卒業に必要な要件については、科目配当表記載の通りとする。	
歯科アシスタント科	・ 歯科助手、歯科医療事務の知識・技術を活かし、お客様、患者様の対応ができる。 ・ 歯科医院においてチーム医療の一員としての自覚を持ち即戦力となる。
医療事務科	・ 医療従事者として、受付対応・レセプト業務等ができる知識を有する。 ・ 病院・クリニックにおいてチーム医療の一員としての自覚を持ち、即戦力となる。
医療秘書科	・ 医療従事者として、受付対応・レセプト業務・看護補助・医師事務作業補助者等ができる知識を有する。 ・ 病院・クリニックにおいてチーム医療の一員としての自覚を持ち、即戦力となる。
診療情報管理士科	・ 診療情報管理士認定資格を保持し、診療情報管理士としての基本的な知識と、情報活用に必要な高度なパソコンスキルを有する。 ・ 高いホスピタリティ・コミュニケーション力を有する。 ・ チーム医療の中心的役割及び、病院経営に貢献できる経営に関する知識を有する。
くすりアドバイザー科	・ 登録販売者資格を取得し、ドラッグストア・薬局・薬店等・薬業界において、即戦力としてお客様・患者様対応が出来る知識・技術を有する。
WEBデザイン・IT科	・ WEBデザイナー、IT関連職種として、顧客の希望を理解し、対応するための基本的な技術・知識を有する。 ・ 企業の中での自分の役割を理解し、自ら課題を解決しようとする姿勢を有する。
医療保育科	・ 保育士・幼稚園教諭の国家資格を保持し、且つ医療の専門的な知識を有し、保育・医療の現場において即戦力となる。 ・ 子ども保護者・同僚などの他者や社会と良好な関係を築く力を有し、的確なコミュニケーションを図ることができる。
介護福祉科	・ 生活歴や価値観が異なる相手の立場に立って共感でき、円滑なコミュニケーション力を持ち合わせ、思いやりを持って行動できる。 ・ 生活の連続性を捉え、科学的な分析を以て、尊厳のある暮らしと自立を支えることができる。 ・ 多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解し、リーダーシップをとることができる。

<取得可能な資格について>

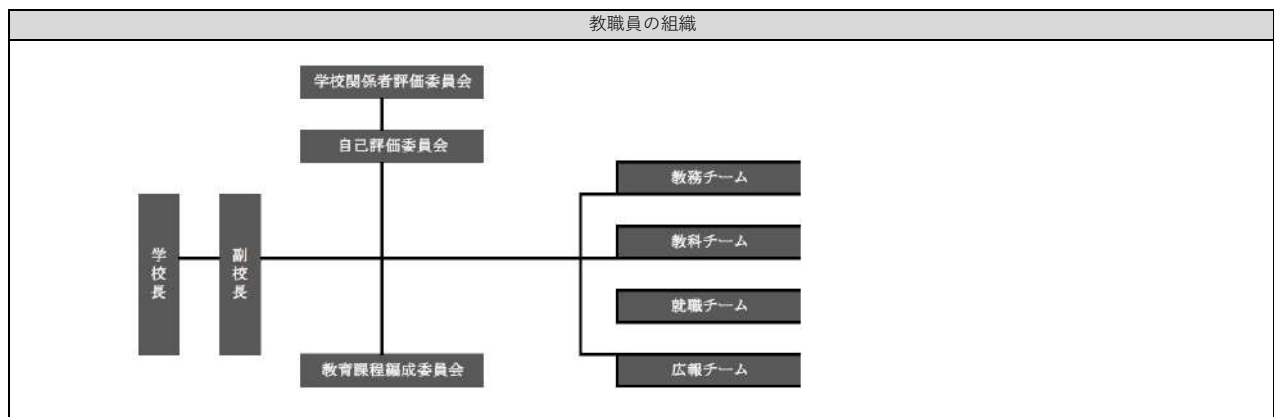
取得可能な資格	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-med/jobdata/skill_introduction.shtml
---------	---

<卒業後の主な進路について>

就職実績	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-med/jobdata/jobdata.shtml
------	---

③教職員

専任教員	30
兼任教員	56
事務職員	3



<教職員の専門性について>

名前	専門分野	資格・職歴等
鈴木 佐知子	医療事務 診療情報管理士	関西医科大学付属病院 医事課 入院係係長（10年以上） 診療情報管理士
水野 聡子	医療事務	春日井の総合病院にて医療事務員として5年以上勤務。 外来窓口・請求業務・実習生教育担当
石田 喜子	薬剤師	病院薬剤師として10年以上勤務 調剤薬局、ドラッグストアにて薬剤師として 5 年以上勤務
恒川 美代子	歯科	歯科医院勤務（5年以上） 歯科衛生士
井手野 日南	介護・介護実習指導	社会福祉法人寿会8年 社会福祉法人愛知たいようの杜1年 介護福祉士
木村 澄香	保育士 幼稚園教諭	多治見市立保育園にて1年、土岐市立幼稚園にて5年、私立保育園にて6年勤務 主任経験有

④キャリア教育・実践的職業教育

キャリア教育への取組	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-med/jobdata/support.shtml
実習実技への取組	カリキュラムに則した現場実習を行い、より実践的な教育機会としている。 <医療秘書科> 医療機関実習Ⅰ：1年次12月に約5日間（40単位時間）の医療機関体験・見学実習を行う。医療事務業務の全般を理解し、実務内容を学ぶ。医療機関からの評価をもとに今後の課題を発見させ、学内での学びを深めていく。実習前に実習の目的を受け入れ機関と担当教員が行い、教育効果の高い実習が出来るように調整している。 医療機関実習Ⅱ：2年次6月に約3週間（120単位時間）の医療機関実習を行う。医療事務の業務の体験・実践を行い、今後の課題発見・就職活動・就職後につなげていく。実習前に担当教員と受入機関が打合せを実施、実習中も巡回を行い、実習の目的を果たせるような環境設定をしている。 <診療情報管理士科> 診療情報管理士病院実習：2年次11月に約3週間（120単位時間）の医療機関実習を行う。診療情報管理士業務を2週間以上実施し、医療機関における診療情報管理士の役割・他業種連携・業務内容について理解する。実習前に担当教員と受入機関が打合せを実施し、実習中も巡回を行い、実習の目的を果たせるような環境設定をしている。 <介護福祉科> 実習ⅠA：1年次5日間（30単位時間）、通所介護・通所リハビリテーションでの実習を行う。利用者や施設職員とのコミュニケーションについて学ぶ。 実習ⅡA：1年次10日間（70単位時間）、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者支援施設での実習を行う。認知症や障害のあるご利用者に触れ、介護過程における情報収集ができるようになる。 実習ⅡB：1年次15日間（120単位時間）、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者支援施設での実習を行う。介護過程におけるアセスメントを行い、個別援助計画の立案方法について学ぶ。 実習ⅠB：2年次10日間（70単位時間）、グループホーム・小規模多機能施設において、訪問介護・訪問入浴の実習を行う。地域密着型施設や在宅で生活するご利用者を理解するとともに、多様なサービスについて学ぶ。 実習ⅡC：2年次20日間（160単位時間）、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者支援施設での実習を行う。介護過程における個別支援計画の実践と評価方法について学ぶ。 <医療保育科> 教育実習Ⅰ：2年次10日間幼稚園での教育実習を行う。 教育実習Ⅱ：3年次10日間幼稚園での教育実習を行う。 保育実習Ⅰ（保育所）：2年次10日間以上90時間以上保育園での実習を行う。 保育実習Ⅰ（施設）：3年次10日間以上90時間以上施設での実習を行う。 保育実習ⅡまたはⅢ（保育所または施設）：3年次10日間以上90時間以上保育所または施設を選択し実習を行う。 いずれの実習も保育士・幼稚園教諭になるための基礎知識・実践的能力を身につけることを目的とし、実習中は担当教員が巡回を行い、実習の目的を果たせるような環境設定をしている。 <歯科アシスタント科> 臨床実習：1年次11月に約3週間（120単位時間）の歯科医院実習を行う。実務の見学や体験を通じて、業務の理解を深める。実習前に担当教員と受入機関が打合せを実施し、実習中も巡回を行い、実習の目的を果たせるような環境設定をしている。 <くすりアドバイザー科> インターンシップ実習Ⅰ：1年次年間を通じて、200単位時間の実施を最低ラインとし、基本は月80時間の実習を目標にドラッグストアでの実習を実施する。 インターンシップ実習Ⅱ：2年次年間を通じて、160時間の実施を最低ラインとし、基本は月80時間の実習を目標にドラッグストアでの実習を実施する。 いづれの実習も実習先と定期的にやり取りを実施し、学校教育への理解と評価への協力等、受入機関との連携を密に行っている。

⑤ 様々な教育活動・教育環境

学校行事	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-med/schoolguide/year.shtml
------	---

⑥ 学生の生活支援

生活上の諸問題（中途退学、心身の健康）への対応	
クラス担任制で、学生の生活指導を実施している。また、クラス担任と教科担当との連携・情報共有を密に行い、多くの教員の目で学生をサポートしている。 入学後すぐにスタートアッププログラムを実施し、スムーズな学校生活への導入を行っている。学生の指導方法を教科担当とも共有・統一して実施している。また、必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、連携体制を整えている。 また、担任だけではサポートが難しい学生に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。	

⑦ 学生納付金・就学支援

学生納付金	https://www.sanko.ac.jp/pdf/nagoya-med/guideline_2025/guideline_01.pdf
就学支援	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-med/guidelines/

⑧ 学校の財務

事業報告書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
-------	---